

2026 年度Ⅰ期 湘南鎌倉医療大学大学院
博士前期課程 助産学コース

＊解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

問Ⅰ 次の用語の中から5つ選び、それぞれの用語について、数行で説明しなさい。

- ① エジンバラ産後うつ病質問票 (EPDS)
- ② 回旋異常
- ③ 妊娠糖尿病
- ④ 月経困難症
- ⑤ バースレビュー
- ⑥ 更年期障害
- ⑦ 胎児機能不全
- ⑧ 新生児ビタミンK 欠乏性出血症

問 2 次の事例を読んで、問いに答えなさい。

Aさんは32歳の初産婦です。身長は145 cm、非妊時の体重は50Kg。
本日Aさんは18週。体重は55Kgでした。最近はつわりが落ち着き、食べ過ぎてしまうと述べています。

1) Aさんの妊娠中の体重増加量の目安は何キロですか。

*BMIの算定方法 体重(Kg)÷身長(m)÷身長(m)

BMI	体重増加量の目安
18.5 未満	12～15Kg
18.5 以上 25 未満	10～13Kg
25 以上 30 未満	7～10Kg
30 以上	個別対応(上限 5Kg を目安)

2) 妊娠中の母体の体重増加量が多すぎる場合と少なすぎる場合、それぞれどのようなリスクが高くなりますか。

Aさんは妊娠39週になりました。

本日の体重は61Kg。下肢に浮腫軽度あり。中期の50gGCTは128mg/dL、これまで尿糖は毎回(－)、尿たんぱくは2回(±)の他は(－)、血圧は110～120台/60～70台で経過しています。

エコー所見から、低置胎盤否定、頭位、羊水インデックス(AFI)12、胎児推定体重3120g。

レオポルド触診法第3・第4段で児頭浮遊感あり、未固定。ザイツ法(＋)でした。

3) Aさんの39週の記録から、注意が必要だと考える所見を抽出しなさい。

4) Aさんに3)の所見があるとき、分娩時にどのようなリスクが高いと考えますか。Aさんの特徴を踏まえて答えなさい。

問 3 次の事例を読んで、問いに答えなさい。

B ちゃんは在胎週数 38 週 4 日に経膈分娩で出生しました。出生体重は 2320g、女児。
アプガースコアは 1 分後 8 点（皮膚色-1、筋緊張-1）、5 分後 9 点（皮膚色-1）、10 分後に 10 点になりました。出生2時間後の血糖値は 50mg/dL、4時間後 62mg/dL でした。
出生後から現在までのバイタルサインは正常範囲内、呼吸・循環に関連する異常所見はなく経過しています。体重は昨日 2202g、経皮ビリルビンの値は出生後 38 時間で 9mg/dL でした。

【在胎週数別 体重標準値】

	3%タイル	10%タイル	50%タイル	90%タイル	97%タイル
38週4日	2206g	2393g	2804g	3231g	3436g

【血清ビリルビン採血基準】 表は経皮ビリルビン値

出生体重	<24 時間	<48 時間	<72時間	<96時間	<120 時間	>5日
<2500g	8	10	12	14	15	15
≥2500g	10	12	14	15	15	15

看護学生のあなたは生後 3 日目の B ちゃんを担当します。

- 1) 出生後に B ちゃんの血糖値を測定した理由は何だと考えますか。
- 2) 本日、B ちゃんの 体重、哺乳量、排泄の状況、経皮ビリルビン値に注意すると指導者は述べています。
なぜこれらの項目に注意するのでしょうか。これらの項目に注目する理由と、何をアセスメントするか、説明しなさい。

問 4 次の事例を読んで、問いに答えなさい。

Cさんは35歳、年齢的にそろそろ子どもを産みたいと、この1年妊活をしていますが、中々妊娠に至りません。

Cさんは仕事のストレス解消に喫煙する習慣があり、1日に10本程度、喫煙します。

1) あなたは、妊娠を考えるならば、Cさんは禁煙した方がよいと考えました。禁煙を勧める理由として、どのようなことを伝えますか。Cさんが妊娠した後のことも考えて、説明してください。

2) 妊娠前から、将来の妊娠を考え、生活を改善することをなんといいですか。

問5 次の問いのうち、AかBのどちらか一つを選び、答えなさい。

A:近年、梅毒の感染者が急増しています。特に、20代の女性の患者数は増加が著しい状況となっています。

予防のために、どのような対象に、どのような教育が必要だと考えるか、説明しなさい。

B:周産期にDVを発見する意義はどの様なところにあるか、説明しなさい。また、周産期においてどのような場面で、あるいはどのようにDVを発見しうると考えるか、説明しなさい。